

## 令和元年度学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校生徒は礼儀正しく意欲を持って何事にも真摯に取り組むが、一方でさらなる自主性、主体性が望まれる状況にある。そこで、生徒が自分の能力・適性等を的確に把握し、高い目標を掲げ、意欲的に学習活動や学校生活に取り組むことを促す取り組みを継続している。

今年度の具体的重点目標としては、「家庭学習の充実と教師の授業力向上」、「基本的生活習慣の改善と生徒支援スキルの向上」、「健康な学校生活を送るための質のよい睡眠の確保」、「一人ひとりの生徒に応じた適切な進路指導の実践」、「学校行事への意欲的な取り組みと部活動からの切り替え」、「科学的思考力の習得」を掲げた。

自己評価では、6分野11項目の目標について、Aが4項目、Bが2項目、Cが4項目、Dが1項目であった。評価Cがついたのは、「家庭学習の充実」、「安定した家庭学習時間の確保」、「部活動からの切り替え」、「課題発見力」である。生徒が自分に必要な家庭学習の時間を確保するよう全体指導・個別指導を工夫する必要がある。「課題発見力」にはCがついたが、2学年においては昨年度課題となった「批判的思考力」に伸長が見られた。また1学年における到達度は全体的に昨年度を上回った。Dがついた「スマートホンの利用時間短縮」については、使用実態を分析するとともに、家庭との連携で改善を図っていききたい。

Aがついた「教師の授業力向上」、「健康な学校生活を送るための質のよい睡眠の確保」、「生徒支援のための研修の充実」、「探究学習における意欲的学習態度の育成」については、継続的取り組みが成果をあげつつあるととらえている。引き続き改善を図っていききたい。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

本校は、現在進んでいる高校教育の諸改革に対応しつつ、求められる役割を果たしていかなければならない。多岐にわたる要請に応えるためには、真に必要な部分に注力できるようスクラップアンドビルドを徹底するとともに、これまで以上に教職員間の連携、学校と保護者の連携を深めていく必要がある。

次年度はこの観点から重点目標を設定し、今年度取り組んできた「業務・行事の改善と精選」の成果を活かしつつ、具体的な方策を考えていききたい。

8 学校アクションプラン

| 令和元年度 富山高等学校アクションプラン -1- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重点項目                     | 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 重点課題                     | 家庭学習の充実(生徒)と教師の授業力向上                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 現 状                      | (1)本校では家庭学習時間を1日平均4時間以上(1週間で28時間以上)確保するよう指導しているが、目標を達成している生徒がいる一方で平均2時間を下回る生徒も見受けられる。また、目標時間を確保しながらもなかなか成績の向上に結びつかない生徒も見受けられる。<br>(2)生徒の実態は年々変化しており、それと共にこれまでの講義形式の授業だけでは、生徒の主体性を十分に引き出すのが難しくなっている。教師は「学び合い」「ICTの活用」など、授業形態に工夫を凝らした、魅力ある授業を展開し、生徒の主体性の引き出しや学力のより一層の伸長を模索する必要がある。                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 達成目標                     | 〔家庭学習の充実〕<br>①1・2年生の学習時間について<br>・1日平均2時間未満の生徒の割合10%未満<br>②効率的な学習について<br>・計画的で効率的な学習ができるようになり、学習の総量が増える生徒の割合60%以上。                                                                                                                                                                                                                                                       | 〔授業力向上〕<br>・「学び合い」を行った授業の割合 80%以上。<br>・主体性を持って授業に参加した生徒の割合 80%以上。<br>・互見授業(2回以上)を実施する先生の割合 90%以上。                                                                                                                                                                                           |
| 方 策                      | 1. 全体指導の強化に加え、担任および教科担当による面接等を通し学習時間の確保に問題をかかえる生徒を重点的に指導する。<br>2. 時間の使い方について日頃から指導し、学習効率の向上に取り組ませるなど、学習の質を上げようとする意識を持たせる。<br>3. ICTの授業への活用については、その長所・短所を把握し、さらに効果的な利用法について研究を進める。<br>4. 各教科・科目において「学び合い」「ICTを活用した授業」等を計画的に設定し、生徒の主体性を引き出す。<br>5. 進路指導部および学年と連携し、課題の質および量の適正化をはかる。                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 達成度                      | ① 2時間未満生徒の割合<br>1年 [4月] 10.0%(6.1%)<br>[9月] 12.4%(9.7%)<br>[1月] 13.5%(10.4%)<br>2年 [4月] 16.2%(15.0%)<br>[9月] 22.0%(23.9%)<br>[1月] 13.1%(21.5%)<br><br>②「1学期より計画的で効率的になった生徒」<br>1年[1月] 85%(83%) 2年[1月] 80%(70%)<br>「1日あたりの学習総量が増えた生徒」<br>1年[1月] 79%(79%) 2年[1月] 76%(67%)<br>※( )内は昨年の数値                                                                                  | ①「学び合い」「ICTの活用」<br>1年 [7月] 88%(86%) [12月] 79%(76%)<br>2年 [7月] 94%(95%) [12月] 76%(85%)<br>3年 [7月] 94%(89%) [12月] 76%(83%)<br><br>②主体的に授業に参加(新規)<br>1年 [7月] 75% [12月] 83%<br>2年 [7月] 78% [12月] 78%<br>3年 [7月] 87% [12月] 88%<br>※( )内は昨年の数値、全校生徒対象<br><br>③互見授業 71%(2回／1人) 25%(1回／1人)          |
| 具体的な<br>取組状況             | 1 担任による面接を各学期1回以上行い、学習状況の把握、学習習慣や生活習慣の見直し・改善に向けたアドバイス等を行っている。<br>2 学年集会等で「スケジュール帳」活用の具体的を提示し、夏休み・冬休み・春休み直前には「しおり」を通して指針を示すなど、時間の自己管理について指導している。<br>3 9月の学習時間調査前に体育大会や文化活動発表会など2大行事後の生活の見直しを指導したが、十分な効果が見られなかった。そのため1月にも調査を実施した。<br>4 主体的・対話的で深い学びの活用を学校全体に促し、「学び合い」の導入やICT機器(タブレットを含む)の活用を含め、授業改善に努めてもらうよう呼びかけている。<br>5 互見授業期間を設定し、担当教科・他教科に関わらず、多くの先生の授業を見学してもらう機会とした。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 評 価                      | C                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | B                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|                          | 学習効率・学習総量の向上については75%以上の生徒が向上したと答えた。1日の家庭学習時間が平均2時間未満の生徒(ほとんどが1時間から2時間)の割合は1年生は13.5%、2年生は13.1%となっている。特に1年生は調査を実施するごとに割合が増加している。この結果からも、家庭学習時間が十分に確保されていない生徒が増加傾向にある。2年生では、夏休み以降行事が続いたところで家庭学習が疎かになった生徒が増加した。しかし、3学期になり、徐々に受験を意識し始めた生徒が増加してきたためか、2時間未満の生徒はかなり減少した。                                                                                                        | 「主体的に授業に参加」については、80%程の生徒が主体性を持って授業に臨んでいるとしている。近年、「学び合い」の定着により、生徒自身が主体的に授業に参加する意識が向上、またICT機器の活用により授業の効率化もはかられ、授業改善の取り組みが浸透していると考えられる。今回の結果に満足することなく、次年度に向け、生徒の主体性を引き出す授業の研究を続けていきたい。また、互見授業については年2回以上は71%であった。年2回実施の目標は達成されなかったが、90%の先生方が互見授業を行っており、「授業改善のための互見授業」という点においては、目的は全教職員に共有されている。 |
| 学校関係者の意見                 | 保護者からは「忙しい中自分で工夫して時間を作り学習している」「自分で時間を決めて学習時間を伸ばしている」など子供の自主性に任せていてそうあるべきだという意見がある一方、学習時間が短い生徒の原因分析や自主性を向上させる指導など、学校における更なる指導を求める意見も出された。評議員からは評価はBでもよいが、達成できていない生徒の生活状況把握に努めてほしいという要望が出された。                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 次年度へ<br>向けての<br>課 題      | 学習習慣が定着していない生徒に対する粘り強い指導が必要。学習総量を増やし、さらに学力を向上させるための仕掛けを年間を通じて行う必要がある。1年生では週間課題について変更を試みてきたが、現状について、早急に分析・検討し、2年時に向けて改善していく必要がある。                                                                                                                                                                                                                                        | 「学び合い」や「ICT機器の活用」研究を通して、生徒の主体的学習態度を引き出し深い学びに繋がるような授業改善を行っていく。また、新たに生徒アンケートを実施・分析し、問題点を洗い直し、授業の改善をおこなっていききたい。そのためにも、互見授業のあり方(方法)を改善したい。                                                                                                                                                      |

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

| 令和元年度 富山高等学校アクションプラン-2- |                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重点項目                    | 学校生活                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                       |
| 重点課題                    | 基本的生活習慣の改善と生徒支援スキルの向上                                                                                                                                                                          | 健康的な環境づくりに努める知識や能力の向上                                                                                                                                                                                                 |
| 現 状                     | 本校では『生活あつての学習』を掲げ、規則正しい生活習慣の確立をめざしている。しかし、スマートフォン等を長時間使用し、学習に支障をきたす生徒も見受けられる。<br>素直で真面目であるが、現実柔軟に対応できず悩みを抱えてしまう生徒や高校生活に適応しづらくなっている生徒が増えている。教員・保護者が連携して生徒の現状把握に努め、ストレスや悩みの解消に向けて援助する取り組みが必要である。 | 日常の清掃及び月例大掃除の指導を通して、環境を整えることの意義や協力の大切さ、効率的な時間の使い方等を理解させたいが、以下のような課題がある。<br>・授業終了後、一斉に清掃し、早く放課後課外活動を始めよう、という意識が薄い。<br>・漫然と清掃し、協力して手際よく行おうという工夫が不足している。<br>・清掃の意義を理解し、主体的に取り組む姿勢に乏しい。                                   |
| 達成目標                    | ①平日のスマートフォン使用時間(学習目的以外)1時間以内の生徒割合が60%以上。<br>②夜11時から翌朝7時までの間のスマホ使用者10%以下。<br>③生徒・教員・保護者を対象とする講演会や研修会・ワークショップを、年間5回以上実施し、満足度が80%以上。                                                              | ・校内清掃の大切さと、清掃が生活向上につながることを認識できる生徒の割合を9割以上にする。                                                                                                                                                                         |
| 方 策                     | 1. 生活習慣が乱れていると考えられる生徒には、担任や学年主任が面接等をするとともに、保護者と連携し改善を促す。<br>2. 教員・保護者が連携して、心身に問題を抱える生徒を早期に発見し援助する。<br>3. 生徒・教員・保護者が悩みやストレスに対応するためのスキルを、満足感が得られる内容で学ぶ機会を設ける。                                    | ・清掃強化週間を設定し、清掃の取り組み意欲を向上させる。<br>・アンケート調査により、生徒の清掃に対する意識変化をみる。<br>・外部講師の講演(希望者対象)で、健康的な環境づくりに関する意識の向上を図り、全校生徒へ波及させる。                                                                                                   |
| 達成度                     | ①平日の利用時間(学習目的以外) %<br>1年 2年 計<br>0分～60分 36(49, 51) 40(48, 58) 38(49, 54)<br>120分以上 18(11) 14 (11) 16(11)<br>( )は昨年、一昨年の数値<br>②生徒対象3回、保護者対象2回、教員対象2回<br>計7回実施、満足度8割以上                           | ・清掃強化週間は、準備不足のため設定できなかった。<br>・9月のアンケート調査で「掃除は大切」であると回答した生徒は94%いた。<br>・講演会「人間力を高める掃除」後のアンケートより、ほとんどの生徒が「清掃の大切さ」が分かったと回答した。また、多くの生徒が、清掃の効用について様々な示唆を受けたと記述した。                                                           |
| 具体的な取組状況                | ①スマートフォンの適切な使用については、集会や生徒同士の話し合いを通じて使用時間、方法について考えさせ、意識の高揚を促した。<br>②他の分掌部会とも連携を図り、研修会や講演会等を企画した。                                                                                                | ・アンケート調査による意識調査(9月全校生徒対象)<br>・外部講師として、NPO法人「越中掃除に学ぶ会」代表松原隆光氏による『人間力を高める掃除』に生徒・職員82名が参加した。<br>・講義内容や事後アンケート結果をもとに生徒環境整備委員が「健康教室だより」を作成、配布、全校生徒に啓蒙をはかった。                                                                |
| 評 価                     | ① D ② A                                                                                                                                                                                        | C                                                                                                                                                                                                                     |
|                         | ①スマートフォンの平日利用時間は60分以内が昨年49%であったが今年度は減少。利用時間が若干増えている。また、主たる使用時間が夜間23:00以降と答えた者が昨年13%から本年度16%になった。各自の自覚が必要。<br>②それぞれの出席者は問題意識を持ち、概ね意欲的に参加していた。                                                   | ・全校生徒対象の清掃意識アンケートは、9月に1回実施したが、意識の変化を見るための2回目のアンケートを実施しなかった。<br>・「清掃強化週間」は、準備不足のため実施できなかった。<br>・外部講師による講演会では、アンケート結果からほとんどの生徒が、掃除の大切さや掃除が人間力の向上につながることを理解した。<br>・生徒環境整備委員会が『環境整備だより』で講演内容やアンケート結果をまとめ、全校生徒に配布し啓蒙をはかった。 |
| 学校関係者の意見                | スマートフォンの使用については管理や制限を強くする希望が多くある一方、これからの社会に向けて良い活用法を教えるべきだという意見も複数寄せられた。評議員からも生徒が何にスマートフォンを使用しているかを正確に把握することが必要との指摘を受けた。清掃に関する取り組みについては多くの保護者から継続してほしいとの声が寄せられた。                               |                                                                                                                                                                                                                       |
| 次年度へ向けての課題              | ・3学期の学習時間自体は1、2学年とも平年と有意な変化はないものの、スマートフォンの使用頻度について生徒間での情報交換の場から問題意識を高め、学習に影響を与えない適切な使用方法を考えさせたい。                                                                                               | 講演会などを通じて、清掃が環境美化はもちろん、幅広い人間力の向上につながることを理解した。生徒が主体的に掃除に取り組む環境をつくると同時に、「清掃強化週間」などの仕掛けを計画的に設定し、活動を通して生徒が意欲的に清掃に取り組める姿勢の育成をはかりたい。                                                                                        |

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

| 令和元年度 富山高等学校アクションプラン -3- |                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重点項目                     | 進路支援                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 重点課題                     | 一人ひとりの生徒に応じた進路指導の実践                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 現 状                      | 1 具体的な進路目標の決定が遅く、目標に向けた自主的・意欲的な学習に結びついていない生徒が少なくない。<br>2 個々の生徒に応じた進路支援を行うよう努めているが、必ずしも生徒自らが自己の適性や能力を真剣に考えて進路目標を定めているとは言えず、自己を過大あるいは過小に評価したまま進路目標の設定に終始してしまう生徒も見受けられる。                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 達成目標                     | ①[学習・生活習慣の確立]                                                                                                                                                                                                                                                                  | ②[高い進路目標の設定]                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|                          | 「生活あつての学習、学習あつての進路」の意味を深く理解し、三点固定を意識した規則正しい生活を送ることで自主的な学習習慣の定着を図る。1・2学年は週に28時間以上、3学年は週に32時間以上の学習時間を確保する生徒の割合が50%以上。                                                                                                                                                            | 「狭き門を目指す」という富山高校生としての高い志を持ち、2年生終了時点で難関大学をはじめとする大学を第一志望とする生徒の割合が60%以上                                                                                                                                                                                                                |
| 方 策                      | 1. 同じ進路目標を持つ生徒の集団を、補講や大学志望別集会などを通じて早期に形成させ、互いに切磋琢磨できる環境を各学年のさまざまな場面で育成するよう努める。<br>2. 適切な進路指導を行うため、学年集会やしおり・講演会を通して生徒にとって必要かつ有意義な情報の提供ができるように努める。<br>3. 社会人や大学生を招いてのキャリア講座・進路講演等を実施し、目標に向けた自主的・意欲的な学習に結びつくよう指導する。<br>4. 「スケジュール帳」を積極的に活用させ、進路目標の設定や学習習慣の向上に役立てさせる。              |                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 達成度                      | 上記の達成目標について、学期毎に調査している「生活実態調査」の結果は、以下の通りであった。なお、1・2学年の値は1月調査のものであり、3学年は9月実施の値である。<br>1学年 17.2%( 24.6%)<br>2学年 24.3%( 18.6%)<br>3学年 55.4%( 5.9 %) * ( )内は4月に調査した値                                                                                                               | 令和2年1月の進路希望調査の結果は以下の通り。<br>難関10大学および医学部医学科の志望者:58%(163人)                                                                                                                                                                                                                            |
| 具体的な取組状況                 | ・学年集会等を活用し、「生活習慣の見直し」と「学習時間の確保」の必要性を訴えた。<br>・担任面談では、「スケジュール帳」を持参させ、自身の生活の実態について再確認させるように意識づけた。また、スケジュール帳活用コンテストを実施するなど窮屈に感じないよう指導を心がけた。<br>・進路講演会や卒業生など外部から講師を招き、生徒の意欲を喚起した。                                                                                                   | ・最難関大および医学部医学科を志望する生徒の集会を年4回(4月、9月、10月、12月)開催し、入試情報や取り組み方等についての具体的な情報や話題を提供。<br>・OBの大学生との座談会を5月、8月、11月に実施。<br>・OBの大学生による進路講演会を7月に実施。また、8月に東京大学を訪問。<br>・大学研究やオープン・キャンパスへの参加を夏期休業期間に行うように指導。<br>・外部講師(大手予備校)を招き、進路講演会を11月に実施。<br>・最難関大を志望する生徒対象の講座を3教科(国語・数学・英語)で実施し、夏期および冬期で延べ6日間実施。 |
| 評 価                      | C                                                                                                                                                                                                                                                                              | B                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|                          | 1・2学年においては、上記の学習時間の目標を達成している割合は少なかったが、3学年においては、目標値をほぼ達成した。過年度比較では、1学年は－12.7%、2学年は+10.1%、3学年は、+10.4%であった。<br>この達成目標について厳しい目標値であるとの声もあった。しかし、本校では、入学当初より「三点固定」の学習習慣を確立するように3年間継続した指導しており、このことを今後も学習目標の1つに掲げることが「富山高校生」として必要であると考ええる。また、この達成目標には、数値に表れない効果もあり、高校生活の質を高める効果は十分にある。 | 本校では、控えめな進路目標掲げる生徒が一定数いる。そのため、消極的な進路選択にならないように、東京大学を始め、難関大、医学部医学科の志望者集会を定期的に行い、高い志望を持つように働きかけた。その結果、高い目標掲げ、意欲的に取り組む生徒が増えている。                                                                                                                                                        |
| 学校関係者の意見                 | 達成が難しくても高い学習目標は持たせるべきとの意見が多い。ただし、時間数ばかりでなく、取り組み内容や効率の大切さを指導してほしいという意見が見られた。進路目標の設定については賛同の声が多く寄せられたが、職業など将来の目標について考えさせる機会を持たせたり、迷っている生徒との相談や生徒への助言を求める要望、目標設定後の学校・家庭両者でのサポートが必要との意見が寄せられた。                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 次年度へ向けての課題               | 生徒への努力目標として、上記の学習時間の目標値は引き続き提示したい。その際、学習時間のみにこだわるのではなく、学習内容やその質も同様に高めることができるように、生徒一人ひとりに応じた適切な指導を徹底したい。担任や教科担当者等との面談、進路講話等を通じて「自走」できる生徒の育成を今後も図る。                                                                                                                              | 高い目標掲げることだけに満足することなく、その目標を持つ生徒が学習集団の「核」となり、より高い学習意欲と熱意に溢れる学習集団の育成を図る。そのために、たとえば、OBである大学生や第一線で活躍している社会人との懇談会をより一層充実したものにする。                                                                                                                                                          |

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

| 令和元年度 富山高等学校アクションプラン-4- |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                             |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重点項目                    | 特別活動の充実                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                             |
| 重点課題                    | 学校行事への意欲的な取り組みと部活動からの切り替え                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                             |
| 現 状                     | 学校行事は生徒の主体的活動を促し、心身の調和のとれた発達を図り、学校の活力醸成のために重要なものである。よって内容が豊かで充実していることが大切である。本校では生徒と教職員が協力して諸行事を運営しているが、積極的に参加している生徒がいる反面、やや消極的で自主性・創造性に欠けた生徒も見受けられる。年間の行事の意義や各行事の目的・方法を確認するとともに、生徒の意識調査を通じて今後の学校行事への意欲的な取り組みにつなげていきたい。また、9割以上の生徒が部活動に参加していることを踏まえ、部活動がより良い学校生活づくりや意欲的な進路選択に役立つよう支援していきたい。 |                                                                                                                             |
| 達成目標                    | 1.本校の二大学校行事(体育大会、文化活動発表会)に自ら協力できたと感じる生徒が80%以上。<br>充実していたと感じる生徒が85%以上。                                                                                                                                                                                                                     | 2.部活動の引退後、1ヶ月以内に進路選択に切り替えられる生徒が80%以上。                                                                                       |
| 方 策                     | 1.年間における特活行事の時期・目的・内容等の検討を行う。<br>2.主な学校行事(体育大会、文化活動発表会)に対して以下の項目を中心にアンケートを実施する。①準備や運営に自ら協力できたか。②この行事は充実していたか。③その他意見<br>3.部活動の引退後、早期に進路の決定に向けて意欲的に取り組むことができたかアンケートを取り、指導に役立てる。                                                                                                             |                                                                                                                             |
| 達成度                     | 《3年生の体育大会アンケート結果》<br>①協力度 93.1% ②充実度 90.0%<br><br>《1・2年生の文化活動発表会アンケート結果》<br>①協力度 ②充実度<br>1年生 82.6% 87.8%<br>2年生 80.8% 89.4%<br>全体 81.7% 88.6%                                                                                                                                             | 《3年生の部活動アンケート結果》<br>①所属率 89.7%<br>②1ヶ月以内の切り替え 76.5%                                                                         |
| 具体的な<br>取組状況            | ・2つの大きな行事では、生徒の主体性と同時に、協力性や充実度を高められるよう、準備段階から生徒会や実行委員が綿密な計画を立てている。                                                                                                                                                                                                                        | ・9割近くの生徒が部活動に加入しており、他学年とのコミュニケーションづくりにつながっている。また、顧問は進路相談や生活指導の役割も担っており、良好な関係を心がけている。                                        |
| 評 価                     | A                                                                                                                                                                                                                                                                                         | B                                                                                                                           |
|                         | ・体育大会のアンケート結果では、協力度・充実度ともに90%以上の高い数値が見られた。ほとんどの3年生からは、この行事を前向きにとらえ、団結して成功させようとする姿勢が伺えた。<br>・1・2年生の文化活動発表会においても、期待した数値を超えており、生徒の満足度の高い行事となった。一部にはこの行事の意義について、否定的な見解を持つ生徒もいるが、多くの生徒は意欲的に取り組んでいた。                                                                                            | ・昨年は所属率96.4%、切り替えは70.2%であった。切り替えられた生徒割合は向上したが、期待した数値には届かなかった。所属生徒は部活動に意欲的に取り組み、日々充実感を味わっていたと感じるが、進路選択にスムーズに切り替えられない生徒もやや多い。 |
| 学校関係者の意見                | 保護者からは「行事に取り組んでいる子供の姿を見ることで彼らの成長を見ることができ親にとっても楽しみな行事である」「高校生活に対する生徒たちの充実感を感じさせられた」というような感想が多く、これからも文武両道を目指して頑張ってほしいという要望が寄せられた。部活動から学習への切り替えについてはその重要性を保護者の皆さんも認識しておられ、失敗しないよう指導してほしいという要望や、部活動はしっかりやり切った方がしっかり切り替えられる、自信を持って受験に臨めるなど、まずは部活動にしっかり取り組ませてほしいという意見も見られた。                     |                                                                                                                             |
| 次年度へ<br>向けての<br>課 題     | ・体育大会は、近年の暑さを考えると、内容とともに開催の時期についても検討していく必要がある。<br>・文化活動発表会は、本校として継承する部分と、時代の変化に対応していく部分を今後も考えていく必要がある。<br>・部活動に加入し、精一杯やりきることが受験にもつながることを、今後も伝えていくべきである。                                                                                                                                   |                                                                                                                             |

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

| 令和元年度 富山高等学校アクションプラン-5- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |      |                                                                                                      |                  |      |  |  |  |  |   |   |   |   |     |         |      |      |      |     |      |         |      |      |     |     |      |         |      |      |      |     |      |                                                                                                                                                                               |  |
|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|------|--|--|--|--|---|---|---|---|-----|---------|------|------|------|-----|------|---------|------|------|-----|-----|------|---------|------|------|------|-----|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 重点項目                    | 科学教育の推進                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |      |                                                                                                      |                  |      |  |  |  |  |   |   |   |   |     |         |      |      |      |     |      |         |      |      |     |     |      |         |      |      |      |     |      |                                                                                                                                                                               |  |
| 重点課題                    | 科学的思考力の習得                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |      |                                                                                                      |                  |      |  |  |  |  |   |   |   |   |     |         |      |      |      |     |      |         |      |      |     |     |      |         |      |      |      |     |      |                                                                                                                                                                               |  |
| 現 状                     | めまぐるしく変化する現代においては「知識が豊富であること」だけでは対応できなくなっている。「知識」を「知恵」に変えて生きていくためには、「自ら課題を設定し、論理的に思考し、問題を解決する力」が必要となる。それらを育む効果的な教育課程が求められている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |      |                                                                                                      |                  |      |  |  |  |  |   |   |   |   |     |         |      |      |      |     |      |         |      |      |     |     |      |         |      |      |      |     |      |                                                                                                                                                                               |  |
| 達成目標                    | ①[課題発見力・論理的思考力の育成]                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |      | ②[意欲的学習態度の育成]                                                                                        |                  |      |  |  |  |  |   |   |   |   |     |         |      |      |      |     |      |         |      |      |     |     |      |         |      |      |      |     |      |                                                                                                                                                                               |  |
|                         | ※「ポスターセッション自己評価」<br>上記自己評価を実施し、「批判的」「協働的」「創造的」思考力の育成・確認を行う。各項目の判定「3以上」の生徒(探究科学科)の割合 80%以上                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |      | ※「意識(興味・関心・意欲)調査」<br>「探究力」や「論理的思考力」を育成する学習に意欲的に取り組んだ探究科学科の生徒の割合 80%以上                                |                  |      |  |  |  |  |   |   |   |   |     |         |      |      |      |     |      |         |      |      |     |     |      |         |      |      |      |     |      |                                                                                                                                                                               |  |
| 方 策                     | 1. 「探究基礎Ⅰ」「探究基礎Ⅱ」の指導内容・指導方法を十分研究し、その教育課程について授業担当者の共通理解と密接な連携のもとに実施する。<br>2. 単元ごとの自己評価に基づき、生徒自らより高い目標を設定し主体的に学習に取り組むことで、高い学力を形成できるよう指導する。また生徒の将来に必要な力を育むための教育課程であることを自覚させ、意欲的に取り組ませる。<br>3. 巡検研修を「探究基礎Ⅰ」と、東京方面研修を「探究基礎Ⅱ」と効果的に連携させ、探究活動をより深められるよう実施する。<br>4. 「探究力」や「論理的思考力」を育成する学習を、1・2年普通科「総合的な学習(探究)の時間」の指導にも取り入れる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |      |                                                                                                      |                  |      |  |  |  |  |   |   |   |   |     |         |      |      |      |     |      |         |      |      |     |     |      |         |      |      |      |     |      |                                                                                                                                                                               |  |
| 達成度                     | 1年生の12月ポスターセッションにおいて、「批判的」「協働的」「創造的」思考力の観点をふまえた自己評価を行った。<br><table><tr><td></td><td colspan="5">＜到達度 4～1 4段階＞単位％</td></tr><tr><td></td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>3以上</td></tr><tr><td>①批判的思考力</td><td>39.2</td><td>44.2</td><td>14.6</td><td>2.1</td><td>83.4</td></tr><tr><td>②協働的思考力</td><td>57.1</td><td>30.0</td><td>9.6</td><td>3.3</td><td>87.1</td></tr><tr><td>③創造的思考力</td><td>30.8</td><td>42.1</td><td>20.8</td><td>6.3</td><td>72.9</td></tr></table>                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |      |                                                                                                      | ＜到達度 4～1 4段階＞単位％ |      |  |  |  |  | 4 | 3 | 2 | 1 | 3以上 | ①批判的思考力 | 39.2 | 44.2 | 14.6 | 2.1 | 83.4 | ②協働的思考力 | 57.1 | 30.0 | 9.6 | 3.3 | 87.1 | ③創造的思考力 | 30.8 | 42.1 | 20.8 | 6.3 | 72.9 | 「意識(興味・関心・意欲)調査(3段階評価)」の実施結果<br>＜段階3:よくできるようになった、または2:できるようになったの生徒の割合＞<br>6月「論理的思考力を高める学習に興味を持って、自ら進んで取り組んだ。」・・・97.5%(昨年度84.5%)<br>9月「仮説とその検証方法について意欲的に考えた」・・・98.8%(昨年度92.2%) |  |
|                         | ＜到達度 4～1 4段階＞単位％                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |      |                                                                                                      |                  |      |  |  |  |  |   |   |   |   |     |         |      |      |      |     |      |         |      |      |     |     |      |         |      |      |      |     |      |                                                                                                                                                                               |  |
|                         | 4                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 3    | 2                                                                                                    | 1                | 3以上  |  |  |  |  |   |   |   |   |     |         |      |      |      |     |      |         |      |      |     |     |      |         |      |      |      |     |      |                                                                                                                                                                               |  |
| ①批判的思考力                 | 39.2                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 44.2 | 14.6                                                                                                 | 2.1              | 83.4 |  |  |  |  |   |   |   |   |     |         |      |      |      |     |      |         |      |      |     |     |      |         |      |      |      |     |      |                                                                                                                                                                               |  |
| ②協働的思考力                 | 57.1                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 30.0 | 9.6                                                                                                  | 3.3              | 87.1 |  |  |  |  |   |   |   |   |     |         |      |      |      |     |      |         |      |      |     |     |      |         |      |      |      |     |      |                                                                                                                                                                               |  |
| ③創造的思考力                 | 30.8                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 42.1 | 20.8                                                                                                 | 6.3              | 72.9 |  |  |  |  |   |   |   |   |     |         |      |      |      |     |      |         |      |      |     |     |      |         |      |      |      |     |      |                                                                                                                                                                               |  |
| 具体的な取組状況                | 【探究科学科1年】<br>4～5月に、「論理的に考えることとはどのような思考か」というコンセプトのもと、教材を用いて学習を重ねた。<br>6月～7月は、理数科学科・人文社会科学科とも「巡検研修」として、班ごとにフィールドワーク(7月)を含む探究的学習活動に取り組んだ。人文は「立山カルデラ」へ、理数は「カミオカンデ」を含む施設を訪問し、研修を行った。<br>9月の文化活動発表会において科別の発表を行い、その後は班に分かれ課題研究に取り組み、その成果を12月に科内ポスターセッションで発表した。同時期に、2年生主体の三校合同課題研究発表会に参加し、レベルの高い発表を聞くことで経験を積んだ。<br>2月に「サイエンスアイログ」を実施し、大学や研究機関で活躍している若手外国人研究者から、英語で研究の話聞く経験を通して、研究活動に対する関心・意欲を高めた。<br>【探究科学科2年生】<br>4月より各班の計画に従い、探究活動を行った。5月にかけて、富山大学教官による指導助言を受け、課題研究テーマの方向性について調整を図った。<br>8月、2泊3日の東京方面研修で、大学見学および最先端の研究機関の施設見学や班別学習による課題研究に沿った研修・見学を行った。<br>9月の文化活動発表会、12月の三校合同発表会でポスターセッション形式のプレゼンテーションを行った。<br>3学期は、これまで行った発表を研究集録に残すための作業を行い、2月には科内発表会を開き、互いに質問や意見交換をする中で内容を深め、探究活動を締めくくった。<br>【普通科1・2年】<br>1学期に「論理的思考力」を育成する学習を4時間実施した。その結果、文化活動発表会では、「仮説をたてて、検証を試みる」という手順を含む内容が、定着してきている。 |      |                                                                                                      |                  |      |  |  |  |  |   |   |   |   |     |         |      |      |      |     |      |         |      |      |     |     |      |         |      |      |      |     |      |                                                                                                                                                                               |  |
| 評 価                     | B                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |      | A                                                                                                    |                  |      |  |  |  |  |   |   |   |   |     |         |      |      |      |     |      |         |      |      |     |     |      |         |      |      |      |     |      |                                                                                                                                                                               |  |
|                         | 多くの生徒がポスターセッションによる発表に対し達成感を感じている。しかし、そうでない生徒も少なからずおり、「批判的」「協働的」「創造的」思考力の観点を意識しながら課題研究に取り組ませる工夫が必要であると考える。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |      | 目標は達成したが、「段階3:よくできるようになった」と自己評価した生徒は約6割にとどまっている。自らの評価に厳しい生徒も中にはいるが、もっと達成感を醸成するような工夫があればよいのではないかと考える。 |                  |      |  |  |  |  |   |   |   |   |     |         |      |      |      |     |      |         |      |      |     |     |      |         |      |      |      |     |      |                                                                                                                                                                               |  |
| 学校関係者の意見                | 変化の激しい社会に対応していくには目標①の力を伸ばすことが重要との意見が多く、仮説の設定と検証、コミュニケーション能力・質問力の向上、外部講師による講演の増加などを望む意見があった。三校合同発表会等、発表の機会や他校生との交流の機会は生徒の達成感につながっていることから継続を望む声が多い。評議員からもポスターセッションの重要性や、知識を持つだけでなく使えるようになることが大切、などの指摘を受けた。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |      |                                                                                                      |                  |      |  |  |  |  |   |   |   |   |     |         |      |      |      |     |      |         |      |      |     |     |      |         |      |      |      |     |      |                                                                                                                                                                               |  |
| 次年度へ向けての課題              | 「探究Ⅰ」では、理数科学科・人文社会科学科ともに様々な課題に対してのアプローチの仕方を学んだ。今年度から新しく導入した研修もあった。年間を通して、2年次の課題研究にスムーズにつながるような計画になるよう検討している。<br>「探究Ⅱ」では東京研修のプログラムに課題が残った。生徒にとってさらに意義ある研修にしたいと考えている。また、課題研究においては、計画が遅れがちになるため、立案をしっかりと行い、より効果を得られるような工夫を継続的に行っていく必要がある。また、教職員間の共通理解を深める工夫も必要である。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |      |                                                                                                      |                  |      |  |  |  |  |   |   |   |   |     |         |      |      |      |     |      |         |      |      |     |     |      |         |      |      |      |     |      |                                                                                                                                                                               |  |

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)